電脳援助 Ver.5

浅田 英輔

今回の電脳援助はSNSについて。

子どもの問題、特に中高生に関わっている方は悩んでいらっしゃることと思います。統計によると、10代の7割がなんらかのSNSを利用しているとのこと。また、半数以上が複数のSNSを利用しているようです。そもそも、それってなに？何が問題なの？ってところを考えます。

SNSってなんなの？

Social Networking Serviceの略。日本語にすると、「社会的網状サービス」？？　カタカナ語が一般的に使われているので、日本語にすると余計わからなくなりますね。

☆広義には、「ネット上でやりとりできる仕組み」全体を指します。コメントできるホームページ、ブログ、掲示板なども含みます。コメント欄がないブログなどは当てはまらないです。

☆狭義には、「なんらかの個人情報を登録して、(実名でなくとも)ユーザーが特定されるネット上のサービス」といえ、やりとりすることが主な目的のものをSNSと呼ぶ事が多いですね。TwitterやFacebook、Mixi、LINEなどが有名ですが、本当にたくさんの種類があります。匿名掲示板は、誰が書いているのかわからないのでこの場合は定義から外れます。ブログへのコメントも、投稿者名が変更できるのでこの場合からは外れます。

あれ？そもそも、インターネットってなんだ？

大雑把にいうと、相互接続によるコンピュータ間ネットワーク。世界中のコンピュータがつながっている状態、ということ。インターネットとは、「これがそれです」というみえるものはないのです。でも、現代においては、すでに重要インフラのひとつになっていますね。

インフラの代表的なものは、水道、電気。これらは「作っているところ」「出発点」がありますね。浄水場、発電所なんかです。そこから「網目状」の通り道を通って利用者「到着点」のところまで届きますね。作る人と使う人がいる、ということもわかりやすいです。

これに対して、インターネットは「作っているところ」がないです。作る人と使う人の区別がかなり曖昧なのです。いちユーザーが出発点であり、到着点なのです。出発した情報はどこまで届くのかわからず、アクセスした人すべてがそれをみることができる。しかもその通り道は有線のみならず無線電波も当たり前で、ますます見えないものになっているといえます。

出発点がはっきりしないので、災害のときなどもつながっていられるのかもしれませんね。

つまり、インターネットは網目上にコンピューターがつながっていることを指し、SNSはその中でのやりとりをしやすくする仕組みということになります。「SNSは悪くない！悪いのはインターネットだ！」ということになります。

なぜ文通はよくてSNSはだめなのか

実は私は文通経験あります。中学校のときです。いま思うといいもんですね。

文通とSNSは、やっている中身は大した違いはありません。ただ、文通は「みえる」のが大きいでしょう。また、昔は好きな子と電話するのにも、家族の目が気になりましたね。書いていることや話していることは見えませんが、行為がみえることが大きいかもしれません。携帯電話では話している様子が見えず、PCやスマートフォンではなおさら何をしているのかわからないですね。一昔前の非行児童の親御さんは「電話代が何万円にもなる」とか「ケータイ代がひどい」といった悩みがありましたが、今はそれはほとんどありません。通信し放題のプランがあるので、一定の料金以上はかからないのです。

インターネットの世界でやりとりするものは、文章だろうが画像だろうが基本的にデータであり、発することも受け取ることも非常に簡単。「情報を発信した」「情報を受信した」実感にも乏しいです。手紙などは物理的にみえるし、書いたり読んだり話したりしていることがみえるのも大きいでしょう。

加えて、自分で保存する文章も、インターネット上に公開する文章も、扱いは同じ。「自分のパソコンに保存する」のと、「自分のホームページにアップする」という作業は大して違いがないのです。相手に送るのに、封筒を選んだり、ペンを選んだり、速達にしたりといったことは必要なく、「送信」ボタンを1回押すだけでいいのです。「この文書を破棄する」のも「保存する」のも、左のボタンか右のボタンかをクリックするだけの違いでしかありません。

スマートフォンの登場で、さらにそれは簡単に。パソコンの前に座る必要さえなくなりました。1行日記を書くことと、ネット上にTweetすることの差が非常に小さいのです。「バイト先で店長いないときにアイス食っちゃった！」と友だちに自慢気に言うのと、Twitterに「店長不在、やりたい放題」と冷蔵庫に入った写真をアップする、というのとは実は行為の差はほとんどないのです。むしろ、友達がそこにいなくても話せる分、後者のほうが即時的で手軽かと思います。どの事件か忘れましたが、「かんけーねーやつが勝手にリツイートしてんじゃねえよ」と当事者が怒っていたという話がありました。Twitterでの「リツイート」は、いい意味でも悪い意味でも「言いふらすこと」「みんなに教えること」になりますが、これは誰でもできるのです。勝手にやっていい仕様なのです。この人も、ネットって、Twitterって、どういうものかわかっていなかったのだろうと思います。本人にしたら、「ちょっとした悪ふざけを友だちに話した」という意識なのかと思います。

物事をすすめる手続きは簡単なほうがいいし、手間がかからないほうが助かります。でも、手間がかからないことはいいことばかりではないみたいですね。

というようなことを考えた上で、インターネットやSNSと付き合っていく必要があります。自分自身が使わなくとも、相談にくる人は大人でも子どもでもこれらを使っているのです。完全に理解していなくとも、「そういう特性をもつメディアだ」という部分はわかっていることが大事だと思います。「いんたーねっとにそんな写真を流すなんて信じられない！」「現実と空想の区別がついていないのではないか！」といっていても話は進まないのです。もうネットの世界は「現実」の一部です。そういうことを言ってしまう人こそ「現実がみえていない」のではないかと思います。

そこで、いくつかのSNSがどんなものなのか簡単にご紹介いたします。

Facebook

大雑把にいうと、公開日記帳。「今日こんなことがありました！」ということを長文で書く人もいるし、「今朝は寒いね」と一行書く人もいる。出来事に関係なく、思ったことを書いている人もいる。毎日書く人、一日に何回も書く人、月一回書く人、自分は書かないで他の人のものを見ている人など様々。公開の範囲（自分が書いたものを誰がみることができるか）の設定ができるので、「友だちのみ」などに設定できます。

友人知人のネットワークを作るときにぴったり。「友だち」を増やしてネットワークを作る。「友だち申請」をして、OKの場合はつながる。つまり、相互に認め合ったネットワークなのです。「友だちの友だちにどんな人がいるか」を見ることが出来るので、友だちの友だちと友だちになる、なんてのが簡単です。（もちろん、相手の承諾が必要です）

Facebookを開くとこんなかんじ。私のFacebookトップページです。

真ん中の大きな枠のところがスクロールでき、時系列で「友だち」の書き込みをみることができます。おもしろいなとおもったら「いいね！」ボタンを押すし、何か言いたかったら「コメント」すればいいのです。自分の記事にコメントがつくとお知らせメールがきたりするので、すぐ気づくわけです。

オンラインになっている友だちとは、1対1の「メッセージ」のやりとりもできます。

パソコンからでもスマートフォンからでもみることができます。スマートフォンの場合、外出先で写真をとって、「こんなのがあったよ！」などをすぐに投稿できるわけです。

私のお友達の一人です。

この方はニュース記事を投稿しています。ニュースについてあれこれいいあったりすることもあります。

あとでじっくり読みたい記事などをクリップしておくという役目も。

こちらは別のお友達です。

豪華なデザートを投稿しています。「おいしそう！」とか「ふとる！」とかコメントするのです。

その地に行ったら食べてみるのもいいかもしれません。

この方はいつもおいしそうなものを食べています。

研修会で会って仲良くなった方など、今後もお付き合いしたいのだが結局はフェードアウトしてしまう、というパターンが普通かもしれません。そこでFacebookでつながっておくのです。

「フェードアウトするならそれで仕方ないじゃないか」という考えもあるかもしれませんし、実際その後も会うという可能性は高くないのですが、各方面で活躍してらっしゃる方の近況を目にするのは意外と刺激になるものです。

こちらは「ホームページ」みたいに使っている方々ですね上の人はWebのツールの記事、下の方はゲームの紹介をしています。「ブログ」として使うこともできる例です。

また、有名な方々は「友人申請」に寛容な場合があり、申請を承諾してくれたりします。直接知らない方と実名のやりとりをするのも楽しいです。実名ということもあり、恥ずかしくないようにTwitterよりも「考えて書き込み」している気がします。

これが爆発的に広がったのは、大人も「つながり」を求めている、つながりを楽しんでいるからなのではないかなーと思います。

Twitter

大雑把にいうと匿名一言日記。もちろん実名の人もいますが、匿名の人が多いですね。140文字までなので、短文のやりとりになります。基本的に誰からもみられます。一日に何十回も書く人もいれば、自分ではほとんど書かないで、他の人の投稿を眺めて楽しむ人もいます。

Facebookと違い、相手を「フォロー」するのは基本的に自由で、相手の了解はいりません。フォローすると、相手の発言がみえるようになります（フォローしていなくてもみることはできる）。だから、知らない人にも自分の発言がみられるのが「当たり前」のものです。

ということで、これは「いろいろな人の1行日記が次々と表示されるもの」ということになります。自分が選択した「フォローしている人」の一言が次々と時間で流れてくる（これを「自分のタイムライン」という）のです。面白い一言もあれば、どうでもいい一言も多い。「他人の日記の垂れ流し」といえます。

ほとんど隠れていてなんだかわかりませんが、これが私のTwitter画面です。

見えている範囲で6つのツイートがあるのがわかります。

右側の四角で囲んだところが「タイムライン」です。右端に「1分」と書いてあるのがみえますが、「1分前に投稿されました」という意味です。一番上に赤字で表示されていますが、写真をとっているうちにもう「3件の新しいツイート」がされたようです。このように、どんどこ更新されていきます。

Twitterの面白さは、「フォローする人を増やしていくと、自分の好みのタイムラインになる」ということでしょう。私も様々な人をフォローしていますが、やはり「心理系」の人が多いです。パソコンやiPhone関連の人も多いですね。上の画面をみると、私は累計7,887回ツイートしていますね。 私がフォローしている人は431人いて、私をフォローしている人は425人いることになります。必ず「相互フォロー」しているわけではないので、これは必ずしも一致しません。

そういうフォロー相手を増やしたり減らしたりして「自分好みのタイムライン」になっていくのが楽しいのかもしれません。Facebookは「知人」とつながっているものなので、「フレンドリスト」はそのまま友だちリストになります。Twitterは「自分好みのタイムライン」になっているので、「フォローリスト」は自分好みリストということになるので、こちらをみられるほうがちょっとはずかしいです。

私はTwitterは匿名でやっていますが、「正体」を知っている人も多いのでそうそうバカなことはつぶやけません。

LINE

大雑把にいうと、高機能即時メールソフト。携帯電話の番号さえあれば、誰でも無料で登録できます。携帯番号が必要なので、完全に匿名というよりは、「匿名でもできるけど、ユニーク特定が可能なもの」といえますね。Twitterは無料メールを使えばいくらでもアカウントを作れますが、LINEは基本的に一つの電話番号に一つのアカウント。（工夫すれば複数アカウントも可能と思われる。）

そのため、知っている人同士のつながりがメインです。ただ、知人の知人とつながるのも簡単だし、「知人と思われる人」にコンタクトを取ることも簡単です。

中高生の間でLINEが問題のひとつになっていますが、これは「LINEが悪い」のではないです。中高生にも使いやすい、楽しいソフトがたまたまLINEだっただけですね。LINEがなくなると、別のソフトが使われるようになるだけでしょう。

インターフェイスもわかりやすいし、かわいいスタンプがすぐ使える素晴らしいコミュニケーションツールといえます。

左側が「友だちリスト」です。一人選んでチャットのようにメールのやりとりができます。
真ん中と右側がやりとりです。右側の緑色のほうが私の発言で、左側の白いところが[piroco]さんの発言です。メールと同じようなものですが、かなり気軽さが高いですね。しかも、複数でグループチャットもできます。
画面の下の方に薄い字で「無料通話」「ビデオ通話」とあります。インターネット回線さえあれば、電話もテレビ電話も無料でできてしまうのです。
これも、パソコン、スマートフォンどれでも無料で利用できます。（上記はパソコン画面です）

ブログ

Weblogの略語。WeblogとはWeb（インターネット上の）-log（ログ、記録、日誌）という意味。日記的に使われ始めたようですが、様々な自分の考えを述べたりする人もいるので、コメントする機能が充実している場合が多いです。
皆さんがみている「ホームページ」はブログサービスのものかもしれません。ブログは特別なものではなく、かなり一般的にあるものです。Facebookもブログの一種ともいえます。
知らない人のものも見ることもできるし、コメントすることもできます。「炎上」（書いた意見に対し、反対意見や誹謗中傷などが数多く書かれて収拾つかなくなる状態）すると大変です。
アメーバというサービスの中のブログサービスが「アメブロ」、ライブドアブログ、はてなダイアリー、Yahoo!ブログ、So-netブログ、挙げてもきりがないほど、ブログを簡単に作る環境は無料でたくさんあります。

ブログを書く人を「ブロガー」と呼んだりしますが、人気のあるブロガーのサイトは毎日数千から数万の人が見に来たりしているようです。そうなると広告媒体としての価値もあがり、「アフィリエイト」と呼ばれる広告プログラムで収入を得られたりもします。ブログがもとで仕事の依頼があったり、講演会に呼ばれたりといったことも起きているようです。
TwitterやFacebook、ブログを組み合わせることで、「自分のやっていることを世間一般に知ってもらう」「その内容についてのフィードバックをもらう」ということが非常にやりやすくなっているのです。

上手に使えばいい

形は様々ですが、「ネット上に何か書いて、それに対してのコメントのやりとりをする」ものがSNSと言って良いと思います。今回紹介した4つだけでなく、非常に多種多様なサービスがあります。また、それらは若者だけの世界ではありあません。実名で政治論争をしている場所もあれば、無名のイラストレーターの絵が気に入れば絵の依頼をすることができるし、「臨床心理士国家資格化の是非」なんかもネット上のほうが活発なのではないか、と思うくらいです。
私も、知らない人とのつながりができたり（上で紹介したFacebookの「友だち」はまだお会いしたことがない方たちです）、意外な情報を得たりと、楽しく使えています。LINEも無料のコミュニケーションツールとして活用していて、携帯電話の通話料金はほとんどかかっていない

状態です。ただ、どれもこれも、周囲に使っている人が全くいない、という状態であれば最初は楽しく感じられないかもしれませんね。

もちろん、中高生の親や先生が心配する、「いじめの原因になるのではないか」「他校とのつながりができて不良交友になるのではないか」「犯罪被害者になる原因となるのではないか」といった問題は、実際に起きているだろうし、これからも増えると思います。
だからといって、「全面禁止」でいいのでしょうか。「SNS禁止の中学校」というのは、本気でそれらをすべて排除できると思っているのでしょうか。「禁止というけれど、上手にやっているヤツは黙認」なのでしょうか。そもそも、どうやって使用者の発見をするのでしょうか。使い方は問題ないけど校則違反だから、という生徒を探すことにどれだけの労力をかけるのでしょうか。これまでと同様に「守る人のいないどうでもいい校則」を作り続けるのでしょうか。

私は、問題のもととなっているツールを禁止するのはどうも納得出来ません。しかも、それは大人になると上手に使えなければならなくなるのです。今の高校生はLINEで連絡を取り合うのが当たり前であるようです。別に、「周りができることは必ずやらなければならない」とは思いません。「高校生は全員スマホに長けていなければならない」と言っているわけでもありません。「中学生までは全面的に禁止」「でも高校生になった途端に上手に使え」という姿勢が気に食わないのです。「問題が起きそうなものを排除する」のもどうかと思います。だったら、誰も車に乗らなければいいし、家にこもっているのが一番安全です（別の問題はおきますが）。「昔はインターネットなんかなかったし、それでなにも困らなかった」なんていうのも、意味のある意見とは思えません。
最初から全面禁止するのではなく、使ってみて、少し理解して、使い方を教える、生活に支障がでる場合には禁止する、といった段階が必要なのではないでしょうか。多少、失敗はするかもしれません。間違ったこともするかもしれません。大きな失敗をする前に、小さな失敗を重ねてうまく使えるようになるほうが、リアリティがあるのではないでしょうか。

どちらにしても、先に自分が、大人が使ってみるのが理解の近道かと思います。今回紹介したものは、すべて無料で始めることができます。まずはやってみましょう。
たまには失敗するかも！レッツトライ！

疑問・感想は dennouenzyo@gmail.com まで!